

平成30年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 平成30年4月19日（木）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

(1)教科に関する調査

○調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～6学年> 国語、社会、算数、理科

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品 川 区 立 東 海 中 学 校

【国語】

◇各教科の定着状況についての概要◇

▲印：正答率が目標値より5ポイント以上上回るもの

カテゴリ（基礎・活用、領域、観点）別の正答率（%）

▼印：正答率が目標値より5ポイント以下下回るもの

		教科の正答率		領域別正答率				観点別正答率				
		基礎	活用	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語についての知識・理解・技能
第7学年	目標値	65.2	50.7	63.0	55.8	57.2	68.3	59.4	60.4	55.0	56.3	67.6
	正答率	64.6	▲55.9	61.2	55.5	60.6	68.5	58.1	59.4	55.1	59.5	67.6
第8学年	目標値	63.6	66.5	77.5	49.4	53.1	74.6	60.6	77.5	50.6	52.6	73.7
	正答率	70.1	55.4	▲84.1	48.4	57.0	79.4	63.7	▲84.1	50.3	55.9	78.0
第9学年	目標値	64.4	56.4	79.0	61.4	51.3	64.2	72.2	79.0	62.5	52.1	63.8
	正答率	67.6	▲61.6	▲85.4	61.0	56.0	68.2	73.6	▲85.4	63.6	▲57.8	67.5

（7年生）上記の正答率から考察するに、本校の7年生は全体的に目標値とほぼ同程度であったことがわかる。その中で、教科の正答率における「活用」で5.2ポイント上回っている。

（8年生）上記の正答率から考察するに、本校の8年生は「書くこと」に課題があることが分かる。目標値とほぼ同じではあるものの、「書くこと」の項目のみ若干下回っている。対照的に「話す・聞く」については目標値を大きく上回る結果となった。

（9年生）上記の正答率から考察するに、8年生と同様に、「話す・聞く」については目標値を大きく上回った。また、観点別の「読む」項目では目標値を5ポイント以上上回る結果となった。「書くこと」の項目についても8年生と同様に若干下回っている。

◇具体的な課題◇

各設問に目を向けたとき、学年進行に従って正答率が目標値を上回る傾向にあり、昨年度に引き続き、良好な状態を維持している。しかし、領域別の「書くこと」については、全学年で下回っているので対策を講ずるべき項目である。普段から、授業内で積極的かつ具体的に文章を書く機会を設け、書くことへの苦手意識をなくさせることに課題がある。

◇課題の原因として考えられること◇

作文に対する苦手意識をもっており、書くことを諦めてしまう生徒が多いことが考えられる。また、自分の文章に自信がなく、書き出すまでに時間がかかったり、書き直しを繰り返したりする生徒も少なくない。これらのことが原因として考えられる。

◇課題解決のための方策◇

- ①朝の読書週間を中心に本への関心を高めて活字への抵抗を減らし、併せて、語彙力をつけさせる。
- ②辞書を積極的に使う習慣をつけさせる。
- ③毎時間の授業の中で、短い文章を書く活動を繰り返し、作文への苦手意識を減らす。
- ④交流の時間を増やし、鑑賞を通して自信をつけさせる。

◇次年度の数値目標（成果指数）◇

全ての区分において、正答率が目標値・全国平均正答率共に上回るようにする。
特に、「書くこと」についての正答率を高める。

【社会】

◇各教科の定着状況についての概要◇

▲印：正答率が目標値より5ポイント以上上回るもの

カテゴリ（基礎・活用、観点）別の正答率（%）

▼印：正答率が目標値より5ポイント以上下回るもの

		教科の正答率		領域別正答率						観点別正答率				
		基礎	活用	地理1	地理2	地理3	地理4	歴史1	歴史2	政治	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
7年生	目標値	60.0	50.0	55.0	—	—	—	57.0	—	62.9	52.3	58.5	52.2	58.7
	正答率	▼52.3	51.3	▼48.7	—	—	—	▼52.0	—	▼53.4	▼45.2	56.0	▼46.8	▼50.4
8年生	目標値	53.3	43.0	56.3	51.7	44.3	—	52.5	56.3	—	51.7	45.8	51.3	54.0
	正答率	52.0	▲48.7	52.9	51.9	45.6	—	51.9	58.3	—	55.6	48.9	52.0	52.4
9年生	目標値	57.5	47.0	66.7	53.3	60.0	67.5	53.5	45.0	—	57.0	50.6	55.2	57.6
	正答率	57.4	52.8	67.8	57.2	63.3	69.0	54.4	40.7	—	60.7	53.1	56.1	57.5

（7年生）上記の正答率から考察するに、多くの項目で目標値よりも5ポイント以上下回っていることが分かる。「基礎」の内容が定着しておらず、全体の正答率が下がっていると考えられる。

【地理1；世界の中の日本 歴史1；我が国の歴史 政治；我が国の政治】

（8年生）「基礎」の項目が目標値より下回った。また、知識・理解も目標値よりも下回り、定着が進んでいない。地理が苦手である傾向が見られた。

【地理1；世界の地域構成 地理2；世界各地の人々の生活 地理3；世界の諸地域

歴史1；古代までの日本 歴史2；中世の日本】

（9年生）多くの項目で目標値また全国平均を上回った。一方で、歴史の「近代の日本と世界」の正答率が低いことが分かった。

【地理1；日本の地域構成 地理2；世界と比べた日本の地域的特色 地理3；日本の諸地域

地理4；身近な地域の調査 歴史1；近世の日本 歴史；近代日本と世界】

◇具体的な課題◇

歴史的分野においては基本的な用語を正しい漢字で書くことが課題。地理的分野においては、雨温図などの資料を的確に読み取り、それに基づく「記述」や「選択」をさせることに課題がある。

知識理解を重視した教育を進めるのではなく、史資料を読み取り、その時代の説明や時代背景を理解することや、その地域の特色や様子を説明する活動を取り入れる必要がある。

◇課題の原因として考えられること◇

学習から期間が空いた項目の内容の定着度が低いことを鑑み、家庭学習のための宿題やレポートの作成を通して、授業時間以外の学習習慣をつけさせる必要がある。

◇課題解決のための方策◇

- ① 資料集を有効活用し読み取る力や考察する力を身に付けさせる。
- ② 時代ごとのポイントとなる特色について定着させる。
- ③ 歴史の流れを大観するような学習する。
- ④ 世界の州ごとの気候や産業などを学習し、地域的特色を把握する。
- ⑤ 日本の地方ごとの気候や産業などを学習し、地域的特色を把握する。

◇次年度の数値目標（成果指数）◇

目標値、全国平均を上回ることを目標に、基礎・基本の徹底を行う。

【数学】

◇各教科の定着状況についての概要◇

▲印：正答率が目標値より5ポイント以上上回るもの

カテゴリ（基礎・活用、観点）別の正答率（%）

▼印：正答率が目標値より5ポイント以下下回るもの

		教科の正答率		領域別正答率（上：7年・下8・9年）				観点別正答率			
		基礎	活用	数と計算 数と式	量と測定 図形	図形 関数	数量関係 資料の活用	関心・意 欲・態度	見方・ 考え方	数学的 技能	知識 ・理解
7年 生	目標値	74.5	64.3	78.0	71.7	70.0	69.6	66.4	65.8	76.7	66.6
	正答率	71.9	67.3	73.1	67.3	73.1	70.1	66.6	67.3	74.9	64.6
8年 生	目標値	60.5	46.7	66.4	57.1	51.1	49.0	46.7	48.1	60.8	54.1
	正答率	64.3	50.6	69.8	▲67.4	51.5	51.2	53.2	52.8	64.9	57.7
9年 生	目標値	62.4	38.1	65.0	55.7	46.8	61.0	40.5	43.9	60.5	57.1
	正答率	71.2	42.5	▲73.5	▲62.6	▲55.5	▲66.4	44.1	▲50.2	▲69.9	▲64.8

（7年生）数学的な見方や考え方については目標値を上回り、十分定着しているといえる。特に図形に関して理解ができている生徒が多いと判断できる。

（8年生）観点別では、それぞれにおいて目標値を上回り、十分満足できる結果といえる。また、領域別では特に図形の理解や定着ができている生徒が多いという結果であった。

（9年生）すべての領域で5ポイント以上、上回るなど、基本的な式の計算・方程式等、数学的な技能の定着としては満足である。また、図形や資料整理に対する知識・理解の度合いもおおむね満足できる。

◇具体的な課題◇

（7年生）小数・分数の計算への苦手意識を払拭させる。

（8年生）資料を適切に整理し、的確に活用する力を伸長する。

（9年生）関数に対する苦手意識やつまずきを取り除く。

◇課題の原因として考えられること◇

（7年生）基礎的な計算方法を習得できていない生徒が多い。

（8年生）資料をよむ能力が十分でなく、また、中央値、平均値、最頻値などの語句の意味や計算方法が理解していない。

（9年生）式、表、グラフ3つの関わりに対する理解が浅いことである。特に、式（変数）とグラフを切り離して考える生徒が多い。

◇課題解決のための方策◇

（7年生）週に2回、授業の冒頭、その単元に必要な基礎的な計算練習を行い、点数を記録する。

（8年生）語句の意味を再確認し、資料においてそれらが何を指しているのかをまず知り、またそれらの値を正しい方法で確実に計算することを徹底する。

（9年生）関数に関するあらゆる課題に対して、常に式・表・グラフの一貫性・連動性を丁寧に理解させることが必要である。

◇次年度の数値目標（成果指数）◇

（7年生）数と計算、数と式の領域の正答率を3ポイント上げる。

（8年生）数量関係、資料活用の領域の正答率を3ポイント上げる。

（9年生）関数の正答率を3ポイント上げる。

【理科】

◇各教科の定着状況についての概要◇

▲印：正答率が目標値より5ポイント以上上回るもの

カテゴリ（基礎・活用、領域、観点）別の正答率(%)

▼印：正答率が目標値より5ポイント以上下回るもの

		教科の正答率		領域別正答率				観点別正答率			
		基礎	活用	エネルギー	粒子	生命	地球	関心・意欲・態度	思考・表現	技能	知識・理解
第7学年	目標値	63.0	54.4	62.7		59.2		57.6	58.9	60.6	61.9
	正答率	▼56.2	52.0	60.2		▼51.5		52.7	55.2	56.9	▼54.3
第8学年	目標値	60.6	42.0	46.1	58.5	58.3	58.3	49.8	50.1	58.6	57.5
	正答率	▼52.2	31.8	▼38.2	▼49.2	▼48.1	▼50.6	▼39.8	▼42.2	▼46.7	▼47.8
第9学年	目標値	57.3	48.3	51.9	52.2	61.8	51.4	52.4	53.1	53.1	57.4
	正答率	57.0	▼38.4	50.8	▼38.5	59.7	▲59.9	47.7	48.3	▼47.4	56.7

(7年生) カテゴリ別正答率から見た場合「基礎・活用」「領域」「観点」の分類では特定の領域で正答率が目標を下回った。教科全体の正答率は目標値からは、本校はマイナス4.4ポイントだった。

(8年生) カテゴリ別正答率から見た場合「基礎・活用」「領域」「観点」の分類ではほとんどの領域で目標を下回った。教科全体の正答率は目標値からは、本校はマイナス8.9ポイントだった。

(9年生) カテゴリ別正答率から見た場合「基礎・活用」「領域」「観点」の分類では特定の領域で正答率が目標を下回った。その中でも、「地球」の領域では、8.5ポイント上回る結果であった。

◇具体的な課題◇

7年生は、基本的な知識の定着に課題がある。

8年生は、理科学習に対し興味をもたせ、意欲的に取り組ませることに課題がある。

9年生は、科学的思考力を高めることに課題がある。

◇課題の原因として考えられること◇

理科の基礎への理解が足りていないことは勿論であるが、基礎の知識についての継続的な定着学習が不足している。また、理科学習に対する興味・関心の低さがみられる。

◇課題解決のための方策◇

①基礎知識を、覚えることができるよう必要事項を繰り返し提示するなど指導法の工夫を図る。

②原理、法則、実験方法等のそれぞれの意味を理解させる。

③問題演習を繰り返すことで、知識理解の定着をはかりながら、理科への興味関心を高める。

◇次年度の数値目標（成果指数）◇

各区分に於いて、正答率が目標値に達するようにする。

特に、8年生の学習の定着率を高める。

【英語】

◇各教科の定着状況についての概要◇

▲印：正答率が目標値より5ポイント以上上回るもの

カテゴリ（基礎・活用・観点）別の正答率（%）

▼印：正答率が目標値より5ポイント以上下回るもの

		教科の正答率		領域別正答率			観点別正答率			
		基礎	活用	聞くこと	読むこと	書くこと	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語と文化
8年生	目標値	58.0	49.0	63.5	57.5	47.3	58.0	48.4	61.1	50.4
	正答率	57.8	50.4	62.9	58.3	47.6	57.2	49.0	61.8	50.5
9年生	目標値	65.6	47.0	70.0	59.2	53.8	63.0	48.4	63.3	60.4
	正答率	▲71.2	51.9	▲78.0	62.3	▲59.3	▲69.0	51.5	▲68.9	▲66.9

（8年生）前年度と比較して全体的に10ポイントほど落ちているものの9項目全て全国平均を上回り、内6項目が目標値を超えているが、「聞くこと」の正答率は目標値に達していない。英語の意味を捉えることや、発話の流暢さ、会話表現への意識はおおむね高いようだが、前年度数値より20ポイント低下している基礎的な英語の構造理解が十分とは言えない。

（9年生）9項目全ての項目で、正答率が目標値を上回っていることから、学習の定着は良好といえよう。特に教科の基礎をはじめとして6項目で5ポイント以上上回った結果であった。一方で、基礎に比べ、活用分野には顕著の差は見られない。

◇具体的な課題◇

「聞くこと」において、聞いた英語を文法的に判断し、その応答を的確に導き出すことに課題があり、また書くことにおいて、問題文に適した質問や応答を文法的に判断することに課題がある。英作文においては、物事を理論立てて英文を構築することに課題がある。

また、基礎に比べ、活用分野には顕著の差は見られないことから、「知識・技能の習得」が「生きて働く知識・技能」へと発展させることが課題である。

◇課題の原因として考えられること◇

- ① 英語の正確さにおける意識が低い。
- ② 正しい発音で記憶していない。
- ③ 聞き取るスピードに、理解するスピードが追い付いていない。
- ④ 単語や文を聞いて、具体的にイメージできない。
- ⑤ 対話やアナウンスなど、聞き取る際のポイントを理解していない。
- ⑥ 複数の文で構成される、文章のパターンを覚えていない。

◇課題解決のための方策◇

- ① 英語の仕組みや文法を理解できる活動や問題演習の確保。
- ② 音韻がつながるフレーズを練習するなどして、ポイントを意識して聞き取る活動を取り入れる。
- ③ ピクチャーカードを見ながら聞き取るなど、イメージするスピードを早める活動を行う。
- ④ 文章パターンを意識し、繰り返し練習する。

◇次年度の数値目標（成果指数）◇

- ① 聞くことの目標値を上回るようにする。

② 語法、語形の知識・理解の目標値を上回るようにする。

③ 3文以上の英作文、場面に応じて書く英作文の目標値を上回るようにする。